和歌山大学教育学部附属小学校

らいぶ 創 つくりえいたー
LIVE 創 REATOR

NO.75
2015年5月
研究広報誌

問い続け，学び続ける子どもたち

CONTENTS

●発刊にあたって「学び続け，問い続ける子どもたち」を育てるために・1
●本校の研究について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
●教科部紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3・4・5・6



「問い続け，学び続ける子どもたち」を育てるために
～「個」に徹底してこだわるとは～

和歌山大学教育学部附属小学校長　船越　勝

さわやかな五月の風の薫る季節となりました。校庭のツツジが咲き乱れるなか，子どもたちがチョウチョを追いかけ回す姿が見られます。そんな校庭を朝登校しますと，新しく入学した一年生の子どもたちが，キラキラした眼差しで，「校長先生，おはようございます！」と元気に挨拶をしてくれます。一年生の子どもたちも，すっかり附属小学校での生活に慣れてきたようです。

さて，附属小学校では，こうした一人ひとりの子どもを，ものごとの本質をねばり強く個性的に追究する主体である「個」として育て上げる教育実践を何よりも大切にしてきました。子どもたちは，一人として同じ子どもはいません。一人ひとりの子どもは，固有の生活世界を持ち，それを背景にした自分だけの内面世界を持っている存在です。だから，私たち教師は，そうした子どもの存在に敬意を持って，「もっと勉強がわかりたい」「自分のことを認めてほしい」というその子の心理や感情にもていねいに耳を傾け，子どものみとりを深めるとともに，「私はこのことを追究したい」「だから私はこのように考えます」などのその子の切実な課題意識に裏打ちされた学びの追究を支援してきました。つまり，私たちは，「子どもから学び，子どもとともに生きる」教師たらんと，これまで一貫して努力を積み重ねてきたのです。

これが，「個」に徹底してこだわるという私たちなりの教育思想であり，哲学です。

しかし，他方，近年の構成主義の学習論などの影響で，子どもの成長は，単純に個体として行われるという個体還元論的な見方ではなく，その子が切り結んでいる関係こそが個のあり方をつくり出しているという見方が主流になってきました。つまり，その子の存在をつくり出しているのは，その子を取り巻く関係のあり方そのものであり，その子の成長とは，その子の関係性の広がりなのだという，関係本質主義ともいうべき考え方です。だからこそ，私たちはこの間，個の学びを支える学びのコミュニティ（共同体）の実践を展開し，一人ひとりの子どもが居場所を見出し，その子にとっての意味ある学びを協同して追究していく場と時間をつくり出す学級風土づくりを大切にしてきたのです

ところで，今年度，附属小学校では，新たに「問い続け，学び続ける子どもたち」を研究テーマに，研究と実践を進めて行くことになりましたが，そのためには，２つの課題があります。一つは，これまで私たちが大切にしてきた「個」に徹底してこだわるという教育思想を，原点に立ち戻って，問い直し，深めていくということです。すなわち，今日の地点からの私たちなりの再定義の試みです。いま一つは，この「個」に徹底してこだわる教育思想と，この間の学びのコミュニティ（共同体）づくりの実践を統合し，今日求められる「個」の確立を可能たらしめる学びのコミュニティ（共同体）づくりの実践の具体的な内容とあり方を明らかにすることです。「問い続け，学び続ける子どもたち」という研究テーマは，このような２つのことを含み持つものでなくてはなりません。

私たち附属小学校では，こうした新しい「個」と学びのあり方の探究を各地の学校の皆様とともに進めて行くことができればと考えています。今年度も，後掲のご案内にありますように，様々な公開研究会を予定しています。どうか多くの皆様方の積極的な参加をお願い申し上げます。



★昨年度の研究実践の成果と課題より

学びをデザインする子どもたち
～課題意識の深化を通して～

研究主任
馬場　敦義

昨年度，本校では上記の主題のもとで実践研究を行うことで，多くの成果とともに，貴重な課題も得ることができました。本校の研究に携わってくださった秋田喜代美先生と佐藤学先生の示唆をもとに，以下の４点が研究の成果と課題として挙げられました。

成果①　子どもたちが聴き合い学び合う関係が育ってきている。
成果②　学習環境や授業展開の工夫が子どもたちの課題意識の深化につながっている。
課題①　学びをデザインできる子どもは育ってきているものの，学びの質や持続的に追究する姿勢に課題が残る。
課題②　子どもたちの課題意識と教師のみとりにずれがあったり，子どもたちの課題意識を関わり合わせたりするところにみとりの弱さがあった。

以上の成果と課題から，「子どもたち一人一人が自分の学びであることを意識し，主体的に学び続ける姿をめざすこと」，「子ども理解を深く行った上で，子ども同士の関係性も適切にみとること」の２点を今後の研究の展望として振り返りとしました。

今年度は，これまでの取り組みの成果と課題から，研究主題を

問い続け，学び続ける子どもたち

と定め，研究を進めています。

★問い続け，学び続ける子どもたちとは

これまで本校では，学びを「対象と対話し，他者と対話し，自己と対話することで成熟していく三位一体の活動である。」（佐藤 2009）と定義し，研究を進めてきました。対象，他者，自己との対話は，それぞれ独立したものではなく，他の対話を意識しながら進められるものです。その中でも特に他者との対話に焦点を当てて取り組んでいます。それは，「一人一人の子どもが授業中にどれだけ『安心・安定しているか』という居場所感と，学びの対象に対してどれだけ深く，また，より長く『没頭・夢中になってかかわり，考えることができているか』という２点が教育の質を決める。」（秋田 2014）と考えているからです。人は自ら学ぶとき何らかのこだわりをもっています。そのこだわりによって学ぶ意味や必然性が生じ，自ら学ぼうとするのです。「自ら学ぶ意欲とは，『内容こだわり型意欲（効力感）』，『関係こだわり型意欲（受容感）』，『条件こだわり型意欲（必要感）』，『自己こだわり型意欲（有能感）』の４種類の意欲の統合体として形成されている」（鹿毛 2007）と考えられます。この４種類のこだわりを関わらせながら，学ぶ意欲を高め，自ら学びを進めていけるような子どもたちになってほしいです。学びを定義する三位一体の活動は，対象・他者・自己に触れたとき自分の内面から発せられる「問うこと」によって先導されます。「問うこと」は，対象への新しい価値や自己の変容を実感するなどの学ぶ意欲を高めるのです。そのため，「問い続ける」態度を培うことが，「学び続ける」子どもを育てることにつながると考えられます。学び続けるためには問い続けることが不可欠なのです。

今年度予定している研修会・研究会の案内を次頁に掲載させていただきます。
ぜひ和歌山大学教育学部附属小学校へ足をお運びください。

参考文献
[1] 佐藤学・和歌山大学教育学部附属小学校，質の高い学びを創る，2009，東洋館出版社
[2] 秋田喜代美，対話が生まれる教室~居場所感と夢中を保障する授業~，2014，教育開発研究社
[3] 鹿毛雅治，子どもの姿に学ぶ教師「学ぶ意欲」と「教育的瞬間」，2007，教育出版

教科部★紹介 1

国語科部　　つながりを意識して読む力を育む



宮脇　隼　　中村正雄
湯浅明菜　　小杉栄樹

国語科部では，言葉のつながり，他者とのつながり，学習のつながりを意識しながら読む力を育むことを通して，問い続け，学び続ける子どもたちの姿に迫ります。友だちとの対話や教材へ立ち返ることのできる言語活動の設定と，見通しと振り返りを大切にする授業づくりに重点をおいて研究を進めます。それにより，読みの力を高めることのできる授業をめざします。

夏季教科領域別研修会，教育研究発表会などで，授業公開する予定です。

社会科部　一人一人の学びの充実をめざして
～ ひとり学習を全体学習の場面へ ～



矢出大介

社会科では，全体学習において友だちの考えを聞き，自分の考えや思いを出し合う中で，子どもたちが，問い続け，学び続ける授業をめざしています。より深まる学びにつなげるためには，ひとり学習の充実を大切にしたいと考えています。昨今，社会的事象は複雑化し，「ひと・もの・こと」に関する価値観も大きく変化しています。社会の問題を自分にかかわりのあるものとして受け止め，一人一人がこだわりをもって追究していく学習をすすめていくことが大切です。

今年度も，子どもたちをしっかりみとり，対話によって個の「問い」「こだわり」を追究し深めていくことを大切にしていきたいと思います。よろしくお願いします。

算数科部　子どもの思考が創る算数科学習
～互いの考えを豊かに表現し合いながら～



野田香織　吉久寛郎　糸我直人
小谷祐二郎　　川村繁博

算数科では，子どもたちが問い続け，学び続けるための礎として子どもの思考を大切にしていきたいと考えています。授業の中で自分なりに絶えず思考し続け，それをもとに子どもたちが互いの考えを表現し合い，深めながら課題解決に向かっていければと思います。

また，子ども一人一人が自分なりの思考をもてるように，算数的活動を重視した教材の工夫，課題提示の工夫，互いのコミュニケーション力を高める工夫の「３つの工夫」に重点を置きながら研究を進めていきます。

夏季教科領域別研修会・教育研究発表会などで，授業公開を予定しています。よろしくお願いします。

教科部★紹介 ２

理科部　自然に親しみをもち，科学的な思考を育てる理科の学び



西村文成　久保文人　馬場敦義　山本眞喜

子どもたちは，植物の栽培や昆虫の飼育などの体験活動を通して，その生長を喜んだり，昆虫の活動の不思議さやおもしろさを感じたりしています。

また，これまでに知っていたことでうまく説明できない自然事象に出合ったとき，疑問や問題をもつことになります。その「ふしぎだなあ」とか「どうして？」と思うことは「わかりたい」「わかった」「なるほど」につながる大切な気持ちです。

理科部では，理科の原点である自然とつながる「楽しさ」や「感動」を大切にした実践をしていきたいと考えています。対象とのつながりはもちろん，子どもたちどうしのつながりも大切にした実践を研究していきます。その中で，理由や根拠を他者と共有することで学びを深め対象に対する自分の見方・考え方をより科学的な見方・考え方へと変容させていこうと考えています。

生活科部　表現活動により，気付きの質を高める生活科学習



中西大　横瀬文子　田中千映

生活科部では，表現活動により，気付きの質を高める授業や子どもたち一人一人の思いや願いを大切にした授業をめざします。

感じたことや考えたこと、気づいたことを表現する活動を通して，体験や活動から生み出された自らの気付きを自覚することにつなげたいと思います。また，友だちと意見を交流することで新たな気付きや疑問が生み出されると考えています。

今年度も、子どもたち一人一人をしっかりみとり、支援しながら研究を進めていきたいと思います。
よろしくお願いします。

音楽科部「つなげる」ことでせまる音楽の魅力
～思いや意図をもって表現できる子どもに～



内垣美佳　居澤結美

音楽科では，子どもたちが質の高い音楽的な力を身に付けていくために「つなげる」をキーワードにして，子どもたちが生き生きする表現及び鑑賞活動を通して，音楽の魅力にせまっていきたいと考えています。

そのためには ①教材（楽曲）②仲間（他者）③自己の３つを「つながり」合わせていくことで生涯にわたる音楽的な「自己教育力」の育成を図り，その要件を明らかし，「思いや意図をもって表現できる子ども」を目指していけると考えています。

さらに今年度は教材研究や学習環境づくり，題材設定などの様々な視点に「子どもたち同士のつながり合い」を強く意識し研究を進めていきます。

教科部★紹介 3

体育科（学校保健）部



体育科　「チャレンジし続ける子どもたち」

～一人一人の思いを大切にして～

３つの対話が行われる中で「問い」がうまれ対話によってその「問い」が解決していく。これらのくり返しにより学びが深まっていくと考え，研究に取り組んでいきます。みとりと支援の充実に加え，常にチャレンジできる学習環境を整え，学びを支援していきます。

森本孝子　遠茂谷佑樹
則藤一起　渡辺圭

学校保健

小学校生活 6 年間で，生涯にわたって健康な生活を送るための素地づくりをすることが必要です。その中で，子ども一人一人がたくましく生き抜くために，自分のからだや健康を意識して生活を見直し，自らすすんで健康づくりに取り組む意欲と実践力を身につけて、生涯にわたる健康へとつなげられるようにしていきたいと考えています。

図画工作部

感じよう　伝えよう　楽しい　図画工作



鑑賞に演技や脚本などを取り入れたり，表現に相互鑑賞や相互評価を取り入れたりして，鑑賞と表現の一体化に取り組みます。多様な素材，題材を体験したり，１つの素材にこだわって，時間をかけてかかわったり，多様なはたらきかけを試したりします。

自分の「感じ方」を大切にしつつ，友だちの「感じ方」に共感したり，影響し合ったりする活動にも取り組みます。

中土井亮　　上田恵

複式教育部　問いがつながる複式教育

～学び合いの場を生み出すみとりと支援～



子どもたちが進める複式の学習では，司会や記録を中心として継続した問いや学びをつくることが求められます。

教師の働きかけだけではなく，自分たちで全体の意見を吟味し，問いを深めることが大切だと考えています。それは，一人で完結するものではなく，集団としての学びで生み出されるものです。そのため，誰かの問いを自分の問いのように受け取る，受容的な関係をつくりたいと考えています。

宮脇　隼
川村繁博　　中西　大

子どもたち一人一人の問いや考えをみとり，その問いが効果的につながるような支援をめざしたいと考えています。

教科部★紹介 4

家庭科部　子どもたちの「なぜなんだろう」を解決しながら「生活力」を育む



神山　求実　静川　郁子

家庭科では、普段、何気なく過ごしている家庭生活を見直すことから学習が始まります。五感を使って観察することを大切にし、そこから出る子どもたちの「なぜなんだろう」を科学的な視点をもって解決しながら、子どもたちに「生涯にわたってより健康的で快適な生活を創ろうとする力や心情」（＝「生活力」）を育みます。

今年度は、「問い続け、学び続ける子ども」を育てるために、学習の目的を子どもたち一人一人がもてるようにしていきます。「○○をしたい！」「こうなりたい！」などという目的を明確にもつことで、子どもたちは、こだわりをもって学びに臨むことができると考えるからです。協同的な学びのあり方を学習課題に合わせて工夫し、その中で、子どもたちが、互いの良さを認め合いながら、大好きな家族のため，そして自分自身のために「生活力」を身につけていって欲しいと願っています。

From Editors

『らいぶ・創りえいたー』も 15 年目を迎えました。「生き生きと本物を創り出すひと」という意味を込めています。

今年度から『らいぶ・創りえいたー』は５月と９月の２回発行となります。

本校の取り組み等につきましては，今まで以上にホームページでの発信を充実させていきます。

『らいぶ・創りえいたー』やホームページを通して，皆様に本校の取り組みをお伝えし，日々の実践を考える機会にして頂ければ幸いです。

今年度も，よろしくお願いします。



編集委員
矢出，宮脇，中西，川村，久保，糸我，横瀬

和歌山大学教育学部附属小学校
〒640-8137　和歌山市吹上１丁目４番１号
TEL　（０７３）４２２－６１０５
FAX　（０７３）４３６－６４７０
URL　http://www.aes.wakayama-u.ac.jp

今年度の日程

複式授業研究会
６月２０日（土）

夏季教科領域別研修会
７月２３日（木）
２４日（金）
（今年度から参加費無料）

教育研究発表会
１０月３１日（土）

ICT 活用授業研究会
１月下旬

詳しくはホームページにも掲載していきます。是非とも参観宜しくお願いします。